

# 途 上

「よし！！ラスト  
トスパートだ！」

運動委員会企画  
マラソン大会

令和3年12月6日(月) NO.9



題子:副校長 文責:教頭

早いもので、2021年を締めくくる12月、師走となりました。前回の学校便り『途上』は10月に発行され、運動会前だったので、美と力の様子などをお伝えしました。それからおよそ2ヶ月。夏から秋へと向かっていたあの頃が、一気に冬本番となりました。

さて、「冬」をキーワードにした時、私の中では、すぐに頭に浮かぶ子が一人います。それは6年生のKさん、薄着にこだわるKさんです。氷点下の世界になれば、さすがのKさんも長袖長ズボンになりますが、今のところ（12月3日現在）夏姿です。私は、そんなKさんの様子を見ていて、いつからかKさんを、「サマーボーイ」あるいは「夏男」と声をかけるようになりました。

11月12日の1、2時間目のこと。びんずる市に向けて、児童玄関前（外）で活動をしているKさんを見かけたので、いつものように声をかけました。

わたし：Kさん、いいねえ。いつも通りだね。サマーボーイだ！そうは言っても寒くないの？

Kさん：へっちゃらです。

わたし：みんなには“春・夏・秋・冬”って季節が4つあるけど、Kさんはそうじゃないね。春・夏・秋・春だ。

Kさん：教頭先生違うよ。こうだよ。夏・夏・夏・冬！

Kさんにしてやられました。この会話を聞いていた仲間も大笑いでした。

季節の感じ方は人それぞれです。Kさんは、年内半袖を貫くのか、それともKさんにとっての期間限定の“冬支度”となるのか、楽しみです。

今号では、12月1日に行われた全校朝会での、小池副校長先生の講話を中心にお伝えします。

\*\*\*\*\*

## 『音楽はここにある』 12月1日

～小池副校長先生から～

全校の皆さん、おはようございます。

12月になりました。早いもので今年もあと一月となりました。日暮れが早くなって、木々の葉もだいぶ落ちました。雪も少し降りました。冬の生活が始まっています。

さて、今日は、「音楽」について考えてみたいと思います。皆さんはこの方（右の写真を示して）を知っていますか。小澤征爾さんです。小澤征爾さんは「世界の小澤」といって、日本人の中で世界的に有名な人の一人です。

小澤征爾さんは指揮者です。アメリカ・ボストン交響楽団の音楽監督、オーストリア・ウィーン国立歌劇場の音楽監督、国際的音楽祭“サイトウ・キネン・フェスティバル松本”の総監督などを務められました。サイトウ・キネン・フェスティバル松本は、今は“セイジ・オザワ 松本フェスティバル”となって続けられています。以前は6年生の国語の教科書にも載っていました。



【メモとりながら講話を聞く4年生】

その小澤征爾さんに、私は偶然お会いしたことがあります。それは今から20年ほど前の冬、みんなが生まれるずっと前のことです。私の妻の実家が栄村とって、長野県の一番北側なのですが、そこに行く途中遅くなったので、夕飯を食べようと中野市のレストランに寄りました。注文をして待っていると、冬なのに半袖Tシャツを着て、白髪で目が輝いている方がお連れの人と入ってきました。どこかで見たことある人だなと思い、そうだ小澤征爾さんだと気づきました。こんなチャンスはめったにない。記念にサインをしてもらおうと思って、そそくさと食事を終えて、外で待つことにしました。その時の小澤さんは、プライベートで来られていて、お酒を召し上がっていて上機嫌だったように思います。私は意を決して、話しかけ、「サインをいただきたい」と言いました。「何を書けばいいかな」と小澤さんがおっしゃるので、「先生が一番好きな言葉をお願いします」と私は言いました。さて、クイズです。小澤征爾さんはなんて書いてくれたのでしょうか。

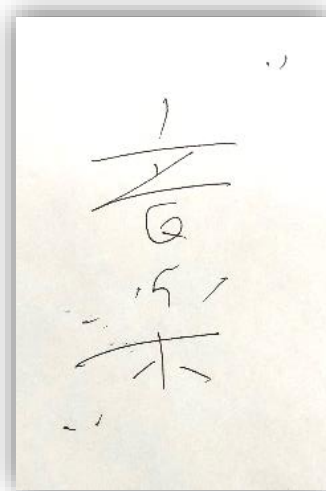
答えはこれです。

音 楽

「音楽」と書いてくれたのです。世界的な指揮者が、見ず知らずのものに書いてくれたものです(右参照)。飾り気がなく気さくですばらしい方だなと思いました。書かれた「音楽」という文字は、見ているだけで感動しました。

さて「音楽」とは何でしょうか。「音楽」はどこにあるのでしょうか。

私は「音楽」でいうリズムは、私たちの命そのものだと思っています。こうして皆さんが各教室で、一人一人が呼吸をして思いめぐらしている、ここにも大きな音楽が確かにあり、聞こえないけれど、皆さん一人一人の鼓動がつながり合って1つのリズムを奏でています。ですから、例えば音楽会は、そうした日頃の生活の中にある音楽を、1つにまとめた



【小澤征爾さんが書いた音楽の文字】

ものという見方もできるのではないかと考えています。

私は以前附属小学校で受け持ったクラス、4年生のときに「ラデツキ—行進曲」（ヨハン・シュトラウス1世作曲）を合奏しました。こんな曲です（西村先生に放送を使って、実際に流してもらいました）。それを聞いていたある方が、感想を寄せてくれました。

私は音楽の勉強を今も続けていますがこう思います。『うまい演奏』と『感動する演奏』は必ずしも一致するものではないと思います。完璧でなくても、何かがメッセージとして聞く側に伝わって、人の心をゆさぶるのが音楽だと思います。そういう意味でも、この「ラデツキ—」は久しぶりに、私の心をゆさぶりました。感動をありがとう。

完璧でなくても、何かがメッセージとして聞く側に伝わって、人の心をゆさぶるのが音楽であるとおっしゃっています。

これから、全校音楽が計画されています。また、2月には1年間の学習のまとめとしての音楽会も計画されています。学級や学年の1年間で、1つの音に表されると思います。コロナは気がかりですが、この冬場に、できる範囲でみんな音楽を楽しみましょう。

今日は「音楽はここにある」というお話をしました。寒くて室内にこもりがちですが、しっかり体を動かして、しっかり食べて健康に過ごしていきましょう。これで、お話を終わります。

4年1組では、講話の後に振り返り（感想）を書きました。

・私は、副校長先生の話聞いて、「音楽って人の心を動かすパワーがあるんだな」と思いました。（Sさん）

・私は、車とか家とかではよく歌うんだけど、学校になると歌いづらくなってしまいます。でも、勇気がわきました。（Tさん）

今年になって初めて全校が集う全校音楽。加藤先生が指揮をふり、保科先生が伴奏をする『まるい地球をひとまわり』（作詞作曲/ミマス、編曲/宮澤裕）。どんな歌声が体育館に響くのか。全校の歌声が重なり合うとどうなるのか。そして、その全校の歌声を子どもたちはどう感じるのか。全校音楽がとても楽しみになりました。

全校音楽の様子は、次回（12月24日発行予定）のお便りでお知らせいたします。お楽しみに・・・。

\*\*\*\*\*



# 『子どもっぽいですね』

## ～防災教育授業より～

11月29日、信越放送、日本無線、信濃毎日新聞が主催するSDGs防災教室が5年生を対象に行われました。天気予報を視点にして、防災について考える1時間になりました。今回の授業は、報道機関の撮影もありました。その報道の中に、ラジオ番組のパーソナリティーをされている方も来られていました。そして、取材後の帰り際に、その方が、「すごく元気なお子さんたちですね。子どもっぽくて、見ていて何だかうれしくなりました」と伝えてくださいました。



【SDGs 防災教室の実際の様子 5年生】

この方がおっしゃった“子どもっぽい”は、単なる“幼さ”を言っているのではないと感じられました。それは、“素のままに居る”あるいは、一人一人が“私のまんまそこに居る”そういったことを“子どもっぽい”という一言で表現されたと自分自身は感じました。

木曜日からは、個別懇談会が始まります。懇談の中で、保護者が親目線で感じている“この子らしさ”と、教師が担任目線で感じている“この子らしさ”、このそれぞれの見え方を、お互いに伝え合えればと思います。

\*\*\*\*\*

### \*お知らせ\*

#### 1 個別懇談会について

個別懇談会希望日の回答ありがとうございました。保護者の皆様の希望日を参考に日程表を作成いたしました。9日木曜日より懇談会が始まります。お一人15分という限られた時間の中で、担任の目線から見た、感じた、お子様の学校での様子をお伝えいたします。あの授業で、あの活動で見せたきりり場面はもちろん、担任だからこそ気づける姿をお届けできればと思います。もちろん、今後の伸びしろとしての課題などあれば、合わせてお伝えします。保護者の皆様もお気づきの点や要望などありましたら、直接担任へお伝え願います。

5日間の懇談会、とてもタイトな日程となっております。懇談が連続しています。また、日程の中に『休憩』の時間を設けておりません。時間が延びることなく、すべての保護者に同じ時間が届くよう、ご協力のほどよろしく願いいたします。なお、各教室で懇談を行っていますので、懇談会期間中は子どもたちが学校に来ることのないようにお願いします。

#### 2 新型コロナウイルス感染症予防について

毎日の健康観察へのご協力ありがとうございます。変異株が発見され、いつ第6波が起こるか分かりません。現在は感染警戒レベルが低くなっていますが、引き続き朝の健康観察へのご協力、よろしく願いします。